

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	12S3025	院生氏名	黄 秋晨
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	若年者における慢性腰痛症に関する研究 —多裂筋横断面積比率を用いた評価とその応用—		
審査結果 (枠で囲む)	合格		
<p>腰痛患者においては、体幹深層筋の活動が減弱および遅延することが確認されており、体幹深層筋である腹横筋や多裂筋の機能不全に対する運動療法（安定性を高める）が注目されている。この論文は、特に超音波画像診断装置を用いて、非疼痛側と疼痛側多裂筋横断面積比率を指標として、介入前後の変化を追い、腰痛評価の有用性を指摘した新規性のある研究である。</p> <p>この研究の目的は、若年者における多裂筋横断面積比率を用いた慢性腰痛症の評価を行うことである。本研究は、国際医療福祉大学倫理委員会（承認番号 12-155）の承認を得て行った。対象者は若年者 121 名である。研究は三つの実験を通して行った。最初に多裂筋横断面積測定信頼性に関する研究、次に非疼痛側と疼痛側多裂筋横断面積比率と慢性腰痛程度に関する研究（妥当性）、最後に腰痛治療アプローチ介入前後の多裂筋横断面積の変化を測定し、効果を判断する介入研究（有効性）である。結果より、超音波画像診断装置を用いた多裂筋横断面積測定では、高い信頼性を得た。慢性腰痛症の有無を状態変数としてロジスティック回帰分析と ROC 曲線の評価により、非疼痛側と疼痛側多裂筋横断面積比率は慢性腰痛の評価に有用であり、慢性腰痛程度を推測できることが示された。腰痛の程度が改善したと共に多裂筋横断面積比率が減少したことが認められた。結論として、若年者における非疼痛側と疼痛側多裂筋横断面積比率は腰痛評価に有用であることが示唆された。</p> <p>われわれ審査委員は、平成 26 年 12 月 9 日 大田原キャンパス・東京青山キャンパス（遠隔）において口頭試問を行った。これに対して論文提出者は適切に回答した。初回審査で用語の統一等について論文の修正を求めたところ、適切に修正された。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査委員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	黒澤 和生	
	副 査	竹内 孝仁	
	副 査	谷口 敬道	